

健康と生きがい・シニアライフを考える

海風

特定医療法人社団
社会福祉法人
松涛会広報誌
No.37 新年号
平成26年



松涛会理念 医療・介護・福祉の連携により地域社会に貢献いたします。
～あなたの喜びが、私の生きがいです～



元患者家族 金子マユミ 作

海風

新年号 No.37 発行年月日/平成26年1月11日 発行元/特定医療法人社団・社会福祉法人 松涛会 〒759-6604 下関市横野町三丁目16番35号
安岡病院 083-258-3711 はまゆう苑 083-258-3800 <http://www.syoutokai.or.jp>

『老人保健施設コスモス』新築移転 ～在宅生活支援強化型老人保健施設へ向けて～



場所	横野町3丁目1-2、4、47、48、49
敷地面積	1,815.38㎡(550.12坪)
建築面積	1,073.10㎡(325.18坪)
延床面積	3,394.22㎡(1,028.59坪)
内容	1F～通所リハビリ、2F～老健施設(認知症36床) 3F～老健施設(一般36床) 4F～有料老人ホーム7室
工期	平成26年1月～12月
総工費	886百万円(税込:66百万円)
特徴	デイケア(絵ガラス張り、リハビリ室(52坪)・ 短時間リハビリ室(23坪、機能訓練室)、 安らぎの空間(喫茶ルーム等)) 入所施設(各フロア完結型、 多床室～全てのベッドに窓有り)

安岡病院 事務長 松井 利三
現在の老人保健施設「コスモス」は、平成3年2月に、病院併設型として開設以来、約23年に亘り、急性期・回復期以降、在宅への中間施設として、自身の機能維持・回復、日常生活介護を中心として、出来る限り自宅での生活に復帰できることを目的に注力して参りましたが、今後更に「2025年のあるべき医療・介護の姿」を考えると、地域包括ケアシステムの構築・促進は必要不可欠であり、その中で、老人保健施設は、正に地域包括ケアシステムの拠点としてその機能を在宅復帰と在宅ケア支援を最大限に発揮できる場所で、地域の住民の期待に応える責務があると考えております。
そのようなことから、今般、国道191号線沿いに、「在宅医療・介護保険相談センター」と市道を挟み、並んで、併設型から独立型在宅生活支援強化型老人保健施設の新築に踏み切りました。在宅サービス部門の二拠点形成)



小規模多機能型施設
くまみの家
有料老人ホーム
Baden-Bader
バデン・バデン

有料老人ホーム
「バーデン・バーデン」
並びに小規模多機能型居宅介護
「くまみの家」移転、
2月1日新築オープン
平成26年2月、住宅型有料老人ホーム「バーデン・バーデン」(19室)の新築・オープンに併せて、「くまみの家」が移転します。
尚、現在のくまみの家は、サテライト型施設となります。

安岡病院 事務長 松井 利三

目次

海風巻頭言

二〇二四年の年頭に寄せて

地域に愛されるケアタウンを目指して
ノロウイルスについて
松涛会の取り組み紹介
緩和ケア週間
思い出を語る会
鎌田實先生介護セミナー
「強くて温つたかくて、優しい介護」
「がんばらない介護生活」

訪問リハビリ 月1,000円
山の田内科 開設5年目にあたり
「山口県レクリエーション功労者」として表彰されて
「長府庭園と火の山展望台」
オランダ(地域包括ケア先進国)見聞記
浅川澄二氏と共にイギリスで学ぶ
家庭医・認知症ケア視察団に参加して
トピック&ニュース
ウロイテハイムのおもてなし
俳句サークル活動しています
脳ねぎのフルーツの取り組みについて
手作りのオリジナル釣竿
近代捕鯨発祥の地「日本のくじらのまち下関」
第5回 下関くじら料理コンクール
平成25年度 松涛会感謝祭
平成25年度 松涛会文化祭
オフタイムの「コマ」職員旅行記
看護部 平成25年度 看護介護研究発表会
平成25年度 松涛会グループ実習インターンシップ受入れ実績
「老人保健施設コスモス」新築移転
バーデンバーデン
馬関祭り
海岸清掃

海岸清掃

10月27日J・COMが主催する横野海岸清掃に松涛会グループから約60名が参加しました。



馬関祭り

8月25日(日)第36回馬関祭り 平家踊総踊り大会に参加しました。
20年ぶり2度目の参加となる今年は、天候も心配されましたが何とか回復し、医療法人・社会福祉法人併せて115名の職員の協力のもと参加しました。
来年は是非上位入賞を狙いたいと思います。
実行委員会一同





地域に愛されるケアタウンを目指して



ケアタウン山の田
拠点長
藤井 裕之

皆様、あけましておめでとございます。皆様が、あけましておめでとございます。皆様が、あけましておめでとございます。

昨年10月より、黄丹前拠点長のあと、ケアタウン山の田にて拠点長職を務めさせていただいております。これまでは、安岡病院地域連携携室にて医療ソーシャルワーカーとして入院相談、療養上の相談、退院支援、関係機関との連絡調整等の業務をさせていただいております。ケアタウン山の田においても、これまで務めさせていただいた対人援助職としての視点を生かし業務をさせていただきたいと思っております。

ケアタウン山の田の設立趣旨である「医療・介護の融合、居住の確保」において、山の田内科・リハビリ・調剤薬局・サービス付き高齢者向け住宅・グループホーム・小規模多機能型居宅介護の複合施設としての諸機能がさらに一体的に機能するよう、スタッフ一同引き続き取り組んで参ります。

また「ケアタウン山の田」がさらに地域に溶け込むように、これまで以上に地域活動に積極的に参加、協力できるよう自治会、民生委員の皆様方のご支援を頂きながら地域の方々から、さらに愛されるケアタウン(町)づくりを進めていきたいと思います。

慶節

二〇一四年の年頭に寄せて



松涛会 理事長
齋藤 正樹

賀正

安倍内閣が発足して二年、アベノミクスを目標に、国の内外を手広く訪問している。嘗ての首相になったエネルギッシュな行動に敬意を表します。

グローバルな時代、原料を輸入して、加工産業に生きている我国は外交が必須で、その例として、僅か一年間で東南アジア諸国10ヶ所を歴訪しておられ、ロシアのプーチン大統領とは既に4回も会談しておられる。

昨年は巳の年、次の巳の年は2025年(平成37年)で、昭和22年(24年の第一次ベトナム)に生まれた団塊の人達が後期高齢者となります。

数多くの疾病をもつ高齢者の治療は「治癒」しがたく、慢性になりやすい。したがって、治療より介護が増加します。慢性疾患の治療、看護、介護は在宅、福祉施設が中心になるでしょう。

欧州の施設を視察すると実感します。今年はずマ歳。中国の故事に、「人間万事塞翁が馬」があり、人間の一生の幸、不幸は予測できないということですが、皆さまには、今年ウマくいく年でありますよう祈念致します。



ダラヘスト(スウェーデン)
「幸せを呼ぶ馬」

二〇一四年 元旦



安岡病院長
戸田 健一

皆様、新年明けましておめでとございます。昨年、日本医療機能評価機構のクオリティーマネージャー(QM)養成セミナーを受講しました。QMとは、病院内における医療の質管理の実務責任者です。

その役割は、病院が良質な医療を組織として継続的に提供できるための仕組みづくり、質評価項目の設定、実施、検証、教育研修の企画、外部情報の収集と院内への周知等があります。

安全な医療の提供はもちろんです。今後は、各病院にあった医療の質向上への取り組みが求められています。

急性期病院では、糖尿病の改善率、術後抗生薬の使用率、予期せぬ再入院率等、各病院で評価項目を設定・検証した質向上への取り組みが始まっています。

慢性期医療を提供する安岡病院としては、今年度は、①手洗い順守率②抗菌薬の適正使用③褥瘡の発生率④転倒・転落予防⑤抑制マニアルの順守率等を臨床指標とし、結果を見える化(数値化)し、質向上に取り組んでいきたいと考えています。

医療の質と安全は表裏一体です。日々変化する患者様の状態を職種間で共有し、質の高い医療の提供をめざしてまいります。

この年が皆様にとって、稔りある一年となることをお祈りいたします。

二〇一四年 元旦

ノロウイルスについて



安岡病院 副院長
楠美 由紀

今年もノロウイルスによる感染症に注意を要する時期になりました。皆さんご存じの方も多いと思いますが、一度チェックしてみましよう。ここでは、家庭内の感染対策を中心に、簡潔にまとめてみます。

【特徴】

- ・特に冬季(12〜3月)に多い。
- ・感染力が強い。(ヒトからヒト(容易に感染))
- ・乳幼児、高齢者は、下痢による脱水、吐物による窒息、肺炎を引き起こしやすいため、注意を要する。

【感染経路】

- ・経口感染 ノロウイルスに感染している食材を食べる、ノロウイルス感染者が調理する過程で、食材や器具にウイルスをつつと、それを食べた人が感染する。
- ・接触感染 感染者の便や嘔吐物に接触する、感染者の手指に付着したウイルスが環境を汚染し二次的に感染する。
- ・飛沫感染 便や吐物の飛沫を吸い込む。
- ・空気、塵埃感染 乾燥して空気中に舞い上がったウイルスを吸入

【潜伏期間】1〜2日

【症状】下痢、嘔気嘔吐、腹痛が主。

【症状発現期間】1〜2日

※しかし、症状消失後も1週間〜1か月程ウイルスが排出される。

【治療】有効な薬はなく、対症療法(症状に応じた治療)となる。

【感染対策】(ここでは、主に家庭を想定)

・手洗いの徹底(石鹸やエタノールの消毒効果は低い)、物

理的にウイルスを洗い流す効果はあるため、いつもより念入りの手洗いをする。

・食物は、85度1分以上加熱する。

【家族が感染してしまった場合】

感染者を隔離(2の部屋)し、看護する人を人に決める。吐物や下痢便を処理する際には、使い捨てマスク、手袋、エプロンを着用し、直接排出物に接触しない様にす。ウイルスが乾燥しない内に(まずはペーパータオルを排出物にかぶせるとよい)、素早く処理し、ビニール袋に密閉し、廃棄する。

汚染された場所は、次亜塩素酸ナトリウム(ブリーチ)スミルトン、ハイターなどを希釈したもので拭く。(希釈は0.02%がよい様ですが、作り方などは、ネットや書籍を参考にしてください。なお、次亜塩素酸ナトリウムを取扱う際には、換気を十分に行うなどの注意をしてください。)

・通学、出勤は、症状消失後約1〜3日を目安にする。(当院、当施設では、3日と規定)

※しかし、前述通り、約1か月はウイルスをまき散らしている可能性があります。手洗いはしっかり行う。

これまで、私の経験上では、ノロウイルスに感染した患者さんで、重篤になる方が2名おられました。一人は90歳男性で、高度な脱水症状を契機に、敗血症・感染症で全身状態が悪化するに陥りました。もう一人は、83歳女性で、施設入所中で、身の回りのことは、自分で出来ていましたが、下痢、軟便が約1か月も持続し、その間の隔離(個室)に幽閉状態にならざるをえず、その影響もあり、ADL(日常生活動作)が大幅に低下し、その後、別の施設へ転居せざるを得ない状態となりました。2名の方は、いずれも生命は取り留めましたが、やはり、高齢者、乳幼児には、特に注意が必要です。

病院、施設内での感染対策は、マニアルや、昨年11/21に行われた院内感染対策委員会の勉強会の内容を、一度チェックし、遵守する必要があります。

緩和ケア週間

緩和ケア病棟 専任医師 平田 譲治

今年も日本ホスピス緩和ケア協会が主催する「ホスピス緩和ケア週間」(10月6日～12日)に因んで、10/5(土)安岡病院において講演会を開催しました。今回は地域の民生委員や介護福祉社の現場で従事する方を中心に約120名が参加されました。講演会は今年で8回目となり、今年度のテーマは「一人ひとりの生き方を支えるために」です。専任医師 認定看護師 栄養士、作業療法士のそれぞれの立場から、緩和ケアの理念やチーム医療、現場での仕事内容、患者家族への対応などをわかりやすく説明しました(講演時間、約90分)。その後、緩和ケア病棟の見学に続き、ボランティア「アンサンブルABO(アボ)」によるホスピスコンサートがありました。

最後に「花は咲く」の全員合唱で締めくくりました。緩和ケア病棟では入院患者や家族のケアの一環として、デイルームにおいて毎週金曜日に合唱や楽器演奏のボランティアによる演奏会を行っています。



思い出を語る会

緩和ケア病棟 看護師 有光 由美

安岡病院の地域交流ホームで、緩和ケア病棟遺族会「思い出を語る会」を開きました。ご遺族10家族の参加を得、故人の写真やスライドにして写し花言葉を添えました。スタッフや遺族同士での語らいの時間を設けました。

また当院の栄養課手作りのデザートと飲み物を提供させていただきました。2時間の間、故人の在りし日がついこの間のように話をしました。

短い時間ではありましたが、少しでも心の内を吐き出して、明日への活力になれたらと願っています。職員も家族の方と再会できて、安心することができました。

これからも皆さまの手助けになれるよう会を続けていきたいと思っております。



鎌田實先生介護セミナー

「強くて、温つたかくて、優しい介護ーがんばらない介護生活ー」

緩和ケア病棟 看護師長 山本 妙子

2013年11月18日地域交流ホームにおいて、鎌田實先生の講演会が大王製紙の好意により松涛会職員に対して開催されました。先生は、東日本大震災の後に早く医療班を結成し、ボランティアで回られた経験が話されました。ガソリンが無い、灯油が無い、酸欠ボンベが無い、薬が無い状態とわかり、官邸に連絡を取り自衛隊と協力して巡回診療されました。その上交通事故で右手切断という痛ましい状態になった時、絶望感で一杯だったそうです。そんな時、余震に合い暗闇の中で夫の携帯から灯りが点滅して見え、夫の声が聞こえたような気がしても、弱い人のために働けと言っているように感じたそうです。余震に耐えられたということです。すべての人にも同じ可能性があると思えました。その時に自分の人生を大事にして介護することでお互いが信頼を寄せる介護となるということです。仲間と出会い、後ろ向きにならないように生きていくこと、自分が何か役に立つのだから実感があることが大切だと思えました。鎌田先生の優しい、温かさをとても感じた講演でした。鎌田先生に講演の後、安岡病院の緩和ケア病棟を見学して頂き、当院の療養環境を賞賛され、理事長、副理事長の療養に対する考え方に賛同されておられました。私も鎌田先生の温かな人柄に触れ、著書も是非拝読したいと思えました。



松涛会の取り組み紹介

訪問リハビリ 月1,000件

超少子高齢化社会を迎えるなか、施設から在宅への流れが進んでいます。その中で、病氣やけがで入院した高齢者がリハビリして退院した後、しばらくすると身体機能が低下してしまう問題がおこっています。国の調査によりますと、退院後3か月間集中的なリハビリテーションをすることで、身体機能を維持する効果があるとのことです。平成19年10月よりスタートした訪問リハビリですが、最初は件数も少なく月20件程度でした。その後利用者様の増加により、平成25年10月では、安岡病院796件、彦島内科294件、山の田内科22件、計1,112件となりました。安岡病院のみならず訪問リハビリも山の田内科・彦島内科が



リハビリテーション科長 品川 紀史

らの訪問も可能となり、より広範囲に利用者様の期待に応えることが出来ています。退院後、訪問リハビリを必要とする利用者様が、以前と変わらず少しでも元気で生活できるよう、訪問リハビリスタッフは、今日も皆さんのお宅に伺います。

山の田内科 開設5年目にあたり

山の田内科 リハビリテーション科 熊谷 真

今春にはケアタウン山の田複合施設の中で、山の田内科は開設5年目を迎えます。昨年5月から佐田院長を迎え、より地域に密着した医療を提供できる様にこれからはも精進してまいります。また佐田院長はご自身で執筆活動もされ、博学かつ雄弁で患者様のお話しも丁寧に傾聴され、佐田院長との会話を楽しみに来院される患者様も多く、職員一同深く感銘を受けております。

ところで、開設時のリハビリテーション科はセラピスト2名と助手1名の体制で、外来リハビリと短時間デイケアを実施してきました。その後、訪問リハビリを介護予防教室を順次開始し、リハビリ室の拡張、リハビリ器材の充実を行うとともに職員の増員

を行い、現在は理学療法士4名、作業療法士1名、リハビリ助手1名となっております。その結果、患者様より充実したリハビリの提供可能を行える体制を整えることができ、在宅を支える地域に密着したリハビリを提供させて頂いております。皆様も1度来院頂き、リハビリの体験や佐田院長とは是非お話しする機会をもつてみては如何でしょうか。



「山口県レクリエーション功労者」として表彰されて

コスモス通所リハビリ 看護師長 水野 佳代子

去る11月9日、第48回山口県スポーツレクリエーションフェスティバルに於いて、「山口県レクリエーション功労者」として表彰を受けました。私が看護師になり最初の勤務先は総合病院の小児科病棟でした。入院中の子供たちが、辛い治療や入院生活の合間に何か楽しい時間を過ごせなかつたかと思ひ、レクリエーション・インストラクターの資格を取り、平成7年が経ちます。平成7年縁あって安岡病院に入職した際、直属の上司であった前小原看護部長より「療養生活をされる患者様に楽しい時間の提供を」とレク活動を業務の中で導入して頂き、今に至ります。運動会やクリスマス会など季節行事の企画運営を手掛け、患者



松涛会の現場、地域社会でこれらの活動を続け、笑顔の輪を広げていきたいと思っております。

「長府庭園と火の山展望台」

小規模多機能ケアタウン江の浦 介護士 濱田 英記

昨年引き続く今年も長府庭園での紅葉狩りを企画いたしました。当日の天候は、晴れたかと思えば急に雨が降り出し、まるで「女心と秋の空」を絵に描いた様な天候だった為、火の山の展望台へコースを変更して行いました。しかし皆さん大変喜ばれていました。一番心に残ったのは、最後にご利用者様全



員で記念撮影をした後、「本当に有難う。いい思い出が出来たよ。」等、今までに見たことのない様な表情で感謝の言葉を頂けたことです。悪天候で外出支援の中止も考えた中、本当に今日ここにきて良かった。とスタッフ全員が心から思った瞬間でした。今後もスタッフ丸ごとご利用者様の笑顔をさらに引き出せるように努めていきたいと思っております。

浅川澄一氏と共にイギリスで学ぶ家庭医・認知症ケア視察団に参加して

私たちは、齋藤副理事長と森國看護部長、そして私の3名が参加。主に医師や看護師、学者、経営者で構成されたメンバーだった。感想は、医療制度や国民性の違いはあるが患者様の目線から考えると、家庭医制度が整備されている英国の方が進んでいるのではないだろうか。医師・看護師との距離が近く、教育・研修を積んだ看護師が積極的な患者様を診ていること、患者様のデータが医療側で共有している為、どこに移動しても医師は経歴を見て診断材料とすることができていた。ただ、他国と比較しても真似のできないきめ細やかなサービスを提供しているということも最後に付け加えておく。



研修風景

松涛会グループ 常務理事

齋藤 英樹

私の今回の研修目的は、英国における医療制度や在宅医療・介護、終末期医療、認知症を学び、松涛会グループにおける今後の参考の資料とすること。研修期間は、10月12日～19日。松涛会グループ

10月12日～10月19日まで、ヒューマンヘルスケア・システム企画、福祉ジャーナリストである浅川澄一氏をリーダーとする総勢21名「浅川澄一氏と共にイギリスで学ぶ家庭医・認知症ケア視察団」に、齋藤副理事長、齋藤常務と共に参加させて頂き、イギリスの医療制度、認知症ケア、ホスピスの実情を知り、日本の医療制度についてカルチャーショックを受けてまいりました。

研修先は、ロンドンから列車で約2時間30分のイギリス第3の都市リーズで家庭医（General Practitioner以下GP）として活躍されている澤憲明医師の診療所見学、「イギリスのプライマリケア」についての講義、ナースングホーム見学、ロンドンでは、「アルツハイマーカフェ運営団体」「認知症ケア、ナースングホーム」「在宅緩和ケア、デイホスピス、訪問看護」「認知症ケア団体」「認知症患者の家族のサポート団体」の訪問見学・講義、また、市内観光も含まれ、タイトなスケジュールでありながら、大英博物館やオペラ鑑賞、王室ご用達パートで、あるフォトナム・メイソンの買い物、地下鉄や2階建てバス、名物でもあるタクシーなどに乗るなどロンドンを楽しむことができました。

イギリスのNational Health Serviceは1948年に創設され、日本の国民健康保険制度同様、国民皆保険制度という概念に支えられていますが、基本的に医療は無料です。（但し消費税は20%）また、GP制度での医療など、フリーアクセスである日本と大きく



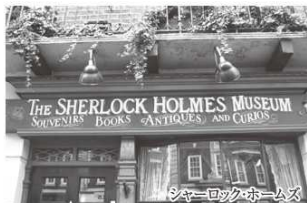
ロンドン街



ホームケアセンター



ロンドン塔



シャーロックホームズ

異なる医療システムですが、今回、研修で学んだイギリスの医療の考え方を看護の実践に少しでも反映したいと考えています。

このような、貴重な機会を与えて頂きとても感謝しております。そして、あらためてロンドンの良さを感じ、ロンドンが大好きになりました。

安岡病院 看護部長

森國 秀美

オランダ（地域包括ケア先進国）見聞記

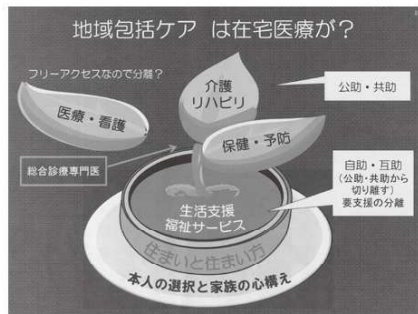
「ケア付き住宅・認知症ケア視察」

松涛会グループ 副理事長 齋藤 妙子

オランダは、九州くらいの小さい国。そして特殊な国です。その要因は、海を干拓して、国土の四分の一は国民自らの手で造った国、自然との闘いが国民全体の常識で連携し連帯しながら国を守るという意思が強く、国民が主役であることが良くわかります。また、巨大な花ビジネスの国で、花のある暮らし、チューリップに代表され、切り花、鉢植え、球根の生産は世界の6割がオランダと言われています。冬が長く寒さの厳しいオランダの春の喜びでしょうか、何処に行っても窓辺に季節の花があり、人生の大事なパートナーであると共に人生を豊かにしています。

ボランティアとして1日4時間、2人1組で働く人が多く、このケアホーム、ホスピスも職員約5倍の数のボランティアがいると言われ、彼らに支えられていることが解りました。

隣人愛は確かに根付いており、マントルケア（外套マントル）で弱者を包む発想）と呼ばれる助け合い精神が国中に広がっています。住み慣れた地域で暮らすことは、「かかりつけ医制度」をベースに、



ホームドクター、訪問看護、訪問介護、ホスピス、そして、その延長線上に安楽死があるということです。これらは、国民の信頼関係の中で成り立つのではないかと考えます。オランダ人は、自分のことは全て自分で決める国民で、自立心と自律心の両方を持ち、自分の死も自分の意思で決めて、個人が自分の生活を自分で選ぶことが徹底されている国民なのです。

病院の死亡率が、日本は80%、他のヨーロッパは40%、60%、オランダは35%。オランダの死亡率が低いのは、

病棟の死亡率が、日本は80%、他のヨーロッパは40%、60%、オランダは35%。オランダの死亡率が低いのは、

オランダは、いち早く地域包括ケアに取り組んでいることがわかり、大変驚きました。

日本の介護は、今から10年～20年かけて、この地域包括ケアシステムの構築に取り組み、下関市も平成27年から始まります。この典型がオランダにあるということをご存知ですか。

どんなに重度になっても、同じ地域の中で暮らしている街づくり、地域包括ケアシステムの早期構築へ、日本の進む道を示してくれるオランダは大人の国だと思いました。

以上

項目	内容
1. 地域包括ケアの概要	オランダの地域包括ケアシステムは、住民の生活圏を単位として、医療、介護、福祉、生活支援が連携したサービスを提供している。
2. 在宅医療の現状	オランダでは、在宅医療が広く普及しており、医師や看護師が患者の自宅を訪問して診療を行う。
3. 介護サービスの充実	オランダには、介護サービスが充実しており、介護職員が24時間体制でサービスを提供している。
4. 生活支援サービスの充実	オランダには、生活支援サービスが充実しており、生活支援員が住民の生活を支えている。
5. 公助・共助・自助の連携	オランダでは、公助・共助・自助の連携が強く、住民が主体的に参加している。
6. 総合診療専門医の役割	オランダには、総合診療専門医が重要な役割を果たしており、住民の健康を支えている。



フロイデハイムのおもてなし

フロイデハイムでは2ヶ月に1度、本庁
包括民生委員・入居者のご家族、施設関
係者が集まり、運営推進会議を行っています。
去議の為に来苑される方々に、毎回入
居者と職員が心を込めて作ったお菓子で
「おもてなし」をしています。

季節に合わせてお菓子を皆で考え、楽し
みながら作り、春はパンケーキ、夏は水羊
羹、秋はスイートポテト、冬はぜんざいと種
類も豊富になりました。会議終了後に、皆
様より「とても美味しかったですよ」とのお
声を頂き、入居者の方々は笑顔いっぱい
でした。次回の「おもてなし」は何にしようか
と今から会話も弾んでいます。

フロイデハイム 主任 松島 容子



俳句サークル活動しています



きつかけは入居
者様の「俳句がや
りたい」の一言が
でした。「これな
ら紙とペンがあれば出来る」「言葉
をひねり出すこ
とも脳の活性化
につながる」「ま

た、「忘れかけていた楽しみを呼び戻すこ
とが出来たかも」との思いから、入居者
様と趣向を凝らし、昨年の2月、「俳句
サークル」を立ち上げました。

参加者9名のスタートでした。写真を
見て俳句を作り、選句して批評し合う。
最後は作者の発表となります。1人1
人の発言の場が多く、丸まった背中が伸

ケハウスフロイデ彦島 竹内 由美子

び、若かりし頃を偲ばせる光景が時折見
られます。月1回の句会を皆様楽しみに
されています。

歎持つ手いそぐ稲刈り秋の暮れ
中川智恵子

丘の辻土手に「一株秋桜
河野重陽

虫の音に雨戸締めるを先送り
松崎マサエ

秋風や馬のひづめの音高く
上村田鶴子

傘寿なお口紅うすく同窓会
吉田貞子

脳ねぎのフークの取り組みについて

施設内通貨「フーク」を始めて2年経ち
ます。当デイサービスの貯められたフークの
使用法は、ご家族の方にも喜んで頂けるよ
うご利用者の日頃の様子や笑顔の写真を
アルバムにし、6月にはウエディングフェアと
してご夫婦で衣装を着て頂き自宅で撮影
会を行います。アルバムにしてプレゼントさ
せて頂いています。

ご家族の方からは「日頃、写真を撮る機
会がないから有り難い」「親戚の皆で集まっ
た時に笑顔の多い写真を見られて安心して
います。」等のお言葉を頂き、喜ばれていま
す。

又、当デイサービスの畑で作っている芋や
芋茎をお土産に持って帰られています。芋の



管理 高橋 明子

手作りのオリジナル釣竿

ケハウスオリープに入居されている藤原
緒さん(71歳)は、8年前からワカサギ釣り
用の釣竿を制作されており、そのことで山
口新聞の取材を受けられました。釣竿のラ
ック部分を使いやすいように改造したう
え、漆で富士山や月見草、ツバキなどを描
き、中には漆黒に金箔をあしらったものも
あり、その出来栄はプロはだしの見事な
ものです。

ケハウスオリープ 事務長 福本 玲
このこと、「選ぶ道を開通したかな」と、
快活に笑っておられました。わかさぎ釣りの
シーズンは12月から2月。世界でたった
一つのオリジナルの竿は、注目の的となり
そうです。



福本 玲

近代捕鯨発祥の地「日本のくじらのまち下関」
第5回 下関くじら料理コンクール

9月21日、鯨食文化の普
及などを目的に下関くじ
ら食文化を守る会などの
主催で「下関くじら料理コ
ンクール」の決勝審査が唐
戸市場で行われました。
最優秀賞に栄養科調理
員、和田まゆみさんの「く
じらと野菜のオイスター
炒め」が選ばれました。市
長賞に栄養科管理栄養士、
新田陽子さんの「くじら
中華炒め」、優秀賞に
栄養科調理員、古川純子
さんの「くじらトマト肉
じゃが」が選ばれました。
表彰式は、11月24日下



左:新田 中央:和田 右:古川

関大丸で開かれる「こ当
地くじらグルメフェア」で
行われる予定です。

【最優秀賞】 栄養科調理員 和田 まゆみ

初めて、このコンクールに応募しました。試作をしたり写
真をとったり、又、会場では審査員の見ている中での調理
は緊張感いっぱいでした。挑戦する楽しさも味わい、とて
も幸せな1日を過ごしました。

【市長賞】 栄養科管理栄養士 新田 陽子

今回初めて下関くじら料理コンテストに参加させていただきました。
「くじら」は「くじら」に工夫して「くじら」独特の味
を活かすか、「くじら」がポイントになり、参加者
の方々のアイデアの詰まった料理を見ることができ、と
も勉強になりました。

【優秀賞】 栄養科調理員 古川 純子

くじら料理コンクールに挑戦することができて、とても
勉強になりました。
レシピの考案や試作の時に、くじらの肉を柔らかくする
にはどうすれば良いかなどいろいろ考える時間が持てた
ことが、良い刺激になりました。

第5回 家族がよろこぶ下関くじら料理コンクール 受賞レシピ

最優秀賞作品

「くじらと野菜の
オイスター炒め」
和田まゆみ



市長賞作品

「くじら中華炒め」
新田陽子



優秀賞作品

「くじらでトマト肉じゃが」
古川純子



【材料】(4人分)

① 鯨肉.....200g	トマト.....1個
② ねぎ.....2本	揚げ油.....適量
③ ビーマン.....2個	片栗粉.....適量
④ ピーマン.....1個	

(A) 濃口醤油.....大さじ1
酒.....大さじ1
生姜.....適量
塩・ごしよ.....適量

(B) オイスターソース.....大さじ2
砂糖.....小さじ2
濃口醤油.....大さじ1
酒.....大さじ1
ごま油.....少々

【材料】(4人分)

① もち米.....90g	たけのこ水煮.....1/3袋
② 人参.....10g	干しえび.....4g
③ 鯨肉.....40g	甘栗.....50g
④ 干しいたけ.....4g	

(A) 生薑汁.....少々
砂糖.....少々
ごしよ.....少々
醤油.....少々

(B) 醤油.....小さじ1
砂糖.....小さじ1
酒.....小さじ1
塩.....少々

【材料】(4人分)

① 鯨肉.....200g	いんげん.....6本
② 片栗粉.....少々	サラダ油.....小さじ1
③ ビーマン.....120g	トマト.....200g
④ 玉ねぎ.....60g	醤油.....大さじ1/2

(A) 赤ワイン.....大さじ1/2
醤油.....大さじ1/2

(B) 水.....1/4カップ
砂糖.....大さじ1/2

- 【作り方】
- ① 鯨肉を5×6cmくらいに薄く切り、裏面に斜め隠し包丁を入れ、さらに包丁の背で叩く。
 - ② ①を(A)に入れ、下味をつける。
 - ③ ねぎを乱切りにし、油で揚げてよく油をききとる。
 - ④ ②に片栗粉をつけて、フライパンに油を敷いて焼く。
 - ⑤ ビーマン、黄ピーマンを乱切りにして、フライパンに油を入れ、④と一緒に炒め、③を加えて味付けする。
 - ⑥ トマトを乱切りにし、⑤に加えて、さつと火を通し、火を止めて、皿に盛り付ける。
- 【作り方】
- ① 鯨肉を(A)に30分つけ、これだけ炒めておく。
 - ② 人参、たけのこ、干しいたけ、たけのこ、干しいたけを炒めて干しいたけの汁をきき、①と②をプ1入れ、(B)で味付けする。
 - ③ もち米をサラダ油に通したものに小さじ1の醤油を加える。
 - ④ 全部混ぜて竹の皮に包む。
 - ⑤ これを30分蒸す。
- 【作り方】
- ① 鯨肉を薄く切て、種で軽く叩き、(A)で下味を付ける。
 - ② じゃがいもは口大の乱切り、玉ねぎは4×5の長さの長さに切る。
 - ③ トマトは6等分に切る。
 - ④ 鍋にサラダ油を熱し、玉ねぎを炒め、さらにじゃがいもを加えて炒める。
 - ⑤ 全体にツヤが出たら、(B)と④を加え、弱めの中火で煮込む。
 - ⑥ いんげんは、①に片栗粉をまぶした鯨肉を加え、醤油大さじ1/2を加えて、さらに5分蒸す。

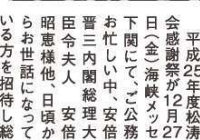
平成25年度 松涛会感謝祭

安岡病院 人事係長 嶺崎 耕司



平成25年度松涛会感謝祭が12月27日(金)海峽ツエ下関にて、ご公務お忙しい中、安倍晋三内閣総理大臣今夫人、安倍昭恵様他、日頃からお世話になつていらっしゃる方を招待し総勢637名参加のもと盛大に開催されました。

永年勤続表彰25年6名、15年6名の他、職員之余興6チームの熱演に会場は笑いとお歌声に包まれました。職員の方々は1年間お疲れさまでした。



平成25年度 松涛会文化祭

文化祭が10月26日(土)に開催されました。今年も天気が心配されましたが、晴天となり青空の下で行うことができました。交流ホームでは、患者様や入所者様が作成した作品を数多く展示しました。見学に来られた方は、様々な工夫を凝らした作品を楽しんで見られていました。今年も人気投票が行われましたが、どの作品が選ばれるか楽しみです。

今年は晴天に恵まれ、演芸大会とバザーや模擬店を多くの方々がより楽しむことができました。出店関係では、うどんやバザー、焼きそば、ケーキ等様々な模擬店が出店され大賑わいでした。

演芸会は、今年は晴れたため駐車場に行けず、今年より多くの方が来場されました。演芸の1番は、YMCマジック様によるマジックショーで、イリュージョンを緊張と驚きで楽しませていただきました。次は、豊潤会様による華麗なめらかな舞踊に心休まるひと時をあげることができました。そして毎回、笑いの渦を巻き起こしてくださるじらら様が寸劇「証城寺の狸囃子」でまたも笑いで楽しませていただきました。最後に海上自衛隊エース部の皆様による「沖繩エイサー」が披露されました。心と体が踊る軽快な音楽と踊りで、最後は来場者の皆様も一緒に踊りに参加され、大きく盛り上がり文化祭を無事終了させることができました。

入居者様の皆様も、今年の文化祭はより

文化祭実行委員会 ケアハウスオリーブ 中村 慎治

楽しめたと喜ばれていました。また来年も文化祭を楽しんでいただけたらと思います。ご協力いただいた関係者、また地域の方々、来場していただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



看護部 平成25年度 看護・介護研究発表会

安岡病院 看護部 研究委員会 岩本 守代

12月10日(火)17時30分より平成25年度 看護・介護研究会を開催いたしました。

松涛会各部署からも参加していただき、132名の参加者がありました。

演題としては、患者ケアに関する

- 「透明文字盤の読み取り技術の練習を行う方法の検討」
- 「介護度4・5の高齢者の睡眠・覚醒リズム改善の取り組み」
- 「手に拘縮のある患者の2種類の手袋型ケッチャを使用している有効性の検証」
- 「経管栄養患者に対する唾液腺マッサージの効果」
- 「職員に関連した」
- 「遺族への手紙を書くことに対する看護師の意識」
- 「介護老人保健施設における看取りのケアについて考える」
- 「通所リハビリテーションにおける介護職員の教育プログラムの検討」
- 「回復期リハビリテーション病棟看護師の退院支援に対する取り組み」

以上、各部署の特徴をよく表したものでした。

今年度も、倫理委員会にて研究の倫理的配慮について、全ての研究が審議を受けました。

また(山口大学医学部 非常勤講師)及び(山口県立大学看護学非常勤講師)の岩本美江子先生による統計の講義を受け、論文の中にも多くの統計結果が掲載されています。

私たちは今後も研究に取り組み、患者様・利用者様の安全・安心・安楽を提供する為に看護・介護の質の向上に努める所存です。そして、この研究を日本看護学会、全日本病院日本慢性期医療学会、日本慢性期医療学会、全国介護老人保健施設大会等で発表し、松涛会の医療・介護福祉を伝えていきたいと考えています。



平成25年度 松涛会グループ実習・インターンシップ受入れ実績

期間	施設名	受入施設・部署	人数	期間	施設名	受入施設・部署	人数
1/6~1/24	日本リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1	7/5~7/6	下関福祉専門学校	グループホームフロイデ彦島	2
1/6~2/28	福岡リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1	7/8~9/9	琉球リハビリテーション学院	リハビリテーション科	1
1/6~3/1	日本リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1	7/16~9/7	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1
1/14~2/8	帝京科学大学医療科学部(千住キャンパス)	リハビリテーション科	1	7/23~7/25	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1
1/16~2/8	小倉リハビリテーション学院	リハビリテーション科	2	7/29~8/3	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1
2/4~2/9	下関看護リハビリテーション学校	特養はまゆう苑	4	7/29~9/27	福岡医療専門学校	リハビリテーション科	1
2/5~2/28	下関看護リハビリテーション学校	リハビリテーション科	1	7/30~8/1	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1
2/8	社会福祉法人 高森福祉会	小規模多機能 杜の宮	1	8/5~8/10	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1
2/11~2/15 2/21	東亜大学医療学部	あやらぎホームヘルパー	6	8/5~9/28	川崎リハビリテーション学院	リハビリテーション科	1
2/19~3/5	機みねホームヘルパー2級課程養成講座	あやらぎホームヘルパー	9	8/7~8/9	下関市立名陵中学校	看護部	1
4/8~5/31	国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション部	リハビリテーション科	1	8/19~8/23	社会福祉協議会	フロイデ彦島デイサービスセンター	2
5/7~5/24	ハーベスト医療福祉専門学校	リハビリテーション科	1	8/26~8/31	九州栄養福祉大学	特養はまゆう苑栄養課	1
5/7~6/29	YICリハビリテーション大学	リハビリテーション科	1	8/26~10/18	日本リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1
5/7~7/8	徳島健康福祉専門学校	リハビリテーション科	1	8/26~10/19	日本リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1
5/7~7/13	麻生リハビリテーション大学	リハビリテーション科	1	9/9~11/9	朝日医療専門学校 福山校	リハビリテーション科	1
5/13~6/8	大分リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1	9/30~10/2	下関看護専門学校	特養・はまゆう苑デイサービス	33
5/27~6/15	下関福祉専門学校	特養はまゆう苑介護	3	10/4	下関市立安岡小学校	看護部	生徒67 先生2
6/3~7/27	川崎リハビリテーション学院	リハビリテーション科	1	10/14~12/14	平成リハビリテーション専門学校	リハビリテーション科	1
7/1~7/5 8/18~8/28	川崎リハビリテーション学院	あやらぎデイサービスセンター	4	10/23~10/25	山口県立下関中央工業高等学校	看護部	1
7/1~7/6	下関福祉専門学校	特別養護老人ホームはまゆう苑	6	10/15~10/17 10/22~10/24	早稲高等学校	特養はまゆう苑デイサービス	18
7/1~7/6	下関福祉専門学校	あやらぎデイサービスセンター	6	11/7	下関市立玄洋中学校	ケアハウスフロイデ	3
7/1~7/6	下関福祉専門学校	はまゆう苑デイサービスセンター	6	11/7~11/8	下関市立吉見中学校	看護部	2
7/1~7/12	山口県立下関南総合支援学校	看護部	1	11/12~11/22	下関福祉専門学校	特養はまゆう苑介護	3
7/5~7/6	下関福祉専門学校	フロイデ彦島デイサービスセンター	2	11/13~11/15	山口県立長府高等学校	看護部	3

☆ オフタイムの1コマ、職員旅行記

京都旅行

空は晴天、もみじは真っ赤、桂川の穏やかな流れ、とても素晴らしい景観でした。冬の京都を満喫し、リフレッシュできました。

(ケアハウスオリーブ 彦島 野見貴志)

京都の紅葉、鴨子、大坂の街も美しく、心身共に満足の旅行となりました。

(社)の宮 井原相子



宮島旅行

天気にも恵まれ、青い海に厳島神社の赤い鳥居が映えて強く印象に残りました。1日通って楽しんで頂きました。

(ケアハウスオリーブ 長野悟美)

揚げもち、焼き牡蠣を食べ歩き、鹿に癒され、明日はきっといい日になるような、宮島ハワーをもらって1日でした。

(はまゆう苑 宮原美代子)



柳川旅行

小春日和の晴天に恵まれて、船頭さんの案内に先入達の素晴らしい知識に思いを巡らしながら川下りを楽しみ、美味しいなま重を堪能しました。

(はまゆう苑 宅介 藤支 授事所 出口巴子)



長崎旅行

晴天に恵まれ、花や運河と美しい景観の街を歩き、フレッシュできました。

昼食は、石炭海苔ちゃんぽん!!とても美味しかったです。

(彦島ホームヘルパーステーション 岡本紀恵)

穏やかな天候のもと、花緑水の美しい景観のハウステンボスを散策して楽しめました。笑顔あふれる楽しい交流の旅となりました。

(彦島ホームヘルパーステーション 植田貴実代)



大分旅行

初めて参加した慰安旅行は、日々の忙しさを忘れてのんびりと楽しむ時間を過ごせ、心にも休まりました。また、機会がありましたら参加したいと思います。

(栄養科 宮野氏)

園内を散策し、日没前にタワーに登り、イルミネーションが徐々に点灯する幻想的な様子を、時日常を忘れたい。

(安岡病院事務局 獅子谷知子)

安心してワイナリーでは多量の結果お土産ワインを買って帰りました。

(山の田内科 末永甫平)

